

事務局通信

「JASTE33における
託児補助」
【10 ページ】
「サテライト企画
開催報告」
【13 ページ】

第33回総会議案の承認についてのお願い

第33回年次総会で下記案件が仮承認されましたが、出席者が定足数に達していないため、本ニューズレターを通して、会員の皆様の意見を集約します。コメント・御意見がございましたら2023年9月30日までに学会事務局(jaste.adm@gmail.com)までお願いいたします。御意見等を集約し、内容に修正が無ければ2023年9月30日を以て下記総会議案を承認されたいたします。会員の皆様のご理解を宜しくお願い申し上げます。

記

日本熱帯生態学会第33回定例総会

日時:2023年6月24日(土) 15:30~16:30

場所:高知市オーテピア研修室およびオンライン(Zoom)

議題:

I-1. 2022年度事業報告(案)

I-2. 2023年度事業計画(案)

II-1. 2022年度会計報告(案)

II-2. 2023年度予算(案)

III. 第34回日本熱帯生態学会年次大会開催予定

IV. その他

I-1. 2022年度事業報告(案)

1. 研究会, 研究発表会の開催

(1) JASTE32 名古屋大会(ハイブリッド)の開催

第32回日本熱帯生態学会年次大会(略称:JASTE32)を2022年6月17日(金)~19日(日)に開催した。大会は対面とオンラインのハイブリッドで開催した。なお、懇親会は実施しなかった。

大会実行委員長:横山 智

大会実行委員会:岩永青史, 富田晋介, 中川弥智子,

原田一宏, 広田 勲

託児支援担当:四方 篝, 富田晋介

発表賞担当:伊東 明

会場:名古屋大学環境総合館

発表件数 51 件(口頭発表 39 件(会場 25 名, オンライン 14 名), ポスター12 件(Dropbox)), 参加登録者数 69 名(うち, 外国人 27 名, 海外からの参加 1 名)

掲載記事

- 1 第33回総会議案の承認
についてのお願い
- 10 JASTE33における
託児補助 四方 篝
- 11 Tropicsのオープンアクセ
スジャーナル化について
藤間 剛
- 13 サテライト企画開催報告
若手イノベーション委員
会

連携学会: 東南アジア学会, 日本アフリカ学会, 日本サンゴ礁学会, 日本タイ学会, 日本泥炭地学会, 日本熱帯農業学会, 日本マングローブ学会, 日本島嶼学会

(2) 公開シンポジウム「熱帯からの新種報告最前線」

日時: 2022年6月19日(日)13時~16時
会場: 名古屋大学環境総合館レクチャーホール
および Zoom ウェビナーを用いたオンライン配信

(3) ワークショップ等の開催, 後援, 助成

① JASTE32 サテライト企画『フィールドワークと月経をめぐる対話: 熱帯に暮らす人・動物・フィールドワーカー』の開催. 2022年6月19日(日)10時30分~12時00分(名古屋大学環境総合館レクチャーホールおよびZoomを用いたオンライン配信)

2. 定期, 不定期出版物の刊行

2022年度から会誌, ニューズレターの送付の基本型を電子版とし, 冊子体の郵送は希望する個人会員, 機関会員, 寄贈先に限定した. この結果, 1号あたりの印刷数は17部となった. そのうち5部は印刷会社(3部), 編集委員長(2部)による補完分のため, 配布実数は12部である.

(1) TROPICS の発行

【2022年度に発行した巻・号】

31巻1号(2022年6月1日発行)
原著論文2報 1-32
31巻2号(2022年9月1日発行)
原著論文1報 33-41
31巻3号(2022年12月1日発行)
Review 1報, Field note 1報 43--63
31巻4号(2023年3月1日発行)
原著論文4報 Field note 2報 65-158
Special issue: Toshinori Okuda, Toshihiro Yamada et al. (eds.) Role of Non-Timber Forest Products (NTFP) for local benefit and forest resource sustainment in Myanmar

【原稿の編集状況(2022年6月10日現在)】

2016年度 受付19件: 受理9件, 却下10件
2017年度 受付13件: 受理4件, 却下7件
2018年度 受付17件: 受理9件, 却下5件, 取り下げ3件(2年修正稿が届かない2件含む)

2019年度 受付15件: 受理12件, 却下3件
2020年度 受付10件: 受理5件, 却下4件, E(取り下げ)1件

2021年度 受付18件: 受理9件, 却下7件, 審査中2件(却下後再投稿後に受理が2報)

2022年度 受付10件: 受理7件, 却下2件, 審査中1件

Special issue: 受付6件: 受理6件

(2) ニューズレターの発行

【2022年度に発行したナンバー】

No. 127 2022年5月25日発行 12ページ
JASTE32 最終案内

No. 128 2022年8月25日発行 12ページ
事務局通信 会長よりのご挨拶, 第32回総会議案の承認についてのお願い, JASTE32における託児補助(四方 篤), TROPICS 発行回数の変更とオープンアクセスジャーナル化について(藤間 剛)

No. 129 2022年11月25日発行 8ページ
JASTE33のお知らせ, 長期観測資料による森林動態解析法: 雨林構成種群の動きを捉える(米田 健), 第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告(四方 篤)

No. 130 2023年2月25日発行 12ページ
JASTE33のお知らせ, 樹木のリン利用特性と熱帯林生態系のリン循環(辻井悠希), 第1回若手交流セミナー開催報告(原 将也)

(3) 学会メールの送信

メールアドレスを登録している会員に対し, 概ね1ヶ月に1回程度メールングリストを通じて, 求人, TROPICS 目次, ニューズレター発行などの情報提供を行った(広報幹事が担当).
TROPICS 受理済み原稿について, 簡潔な紹介文を配信している.

(4) 上記以外にした仕事

(i) TROPICS31巻4号までをJ-STAGEにて公開.

(ii) TROPICS 発行回数の検討
J-Stageでの早期公開と学会メールングリストでの案内により, TROPICS 受理済原稿の早期

公表が可能となったこと、および編集・発行業務を効率化するため、TROPICS の発行回数を現行の年 4 号(6, 9, 12, 3 月)発行から、年 2 号(6, 12 月)発行に変更することを、幹事会、評議員会を経て総会に諮り、承認された。

(iii) TROPICS 特集号の企画

Role of Non Timber Forest Products (NTFP) for social innovation and forest resource sustainment

Toshinori Okuda, Toshihiro Yamada et al. (eds.)

奥田敏統会員からの提案、山田俊弘編集委員が特集号担当となり、31(4)として発行した。

(iv) TROPICS のオープンアクセスジャーナル化の検討に着手した(2023 年度活動計画で説明)

3. 第 32 回総会の開催

2022 年 6 月 18 日(土)15 時~17 時 名古屋大学環境総合館およびオンライン(Zoom)

4. 第 33 回評議員会の開催

2022 年 6 月 17 日(金)14 時 15 分~16 時 15 分 名古屋大学環境総合館およびオンライン(Zoom)

5. 第 32 回編集委員会の開催

2022 年 6 月 17 日(金)13 時~14 時 名古屋大学環境総合館およびオンライン(Zoom)

6. 幹事会の開催

第 86 回: 2022 年 6 月 6 日(月)9 時~12 時 オンライン(Zoom)

第 87 回: 2022 年 12 月 20 日(火)13 時~15 時 30 分 キャンパスプラザ京都およびオンライン(Zoom)

7. 吉良賞

2022 年度の吉良賞募集は、応募期限を 1 ヶ月延長し、2022 年 3 月 31 日に締め切った。特別賞の申請者はなかった。奨励賞は、辻井悠希氏(現森林総合研究所、受賞時九州大学大学院理学研究院、マッコリー大学生物学科、西シドニー大学ホークスベリー環境研究所)が選考委員会で選考された。受賞対象業績は以下のとおり。

辻井悠希 氏

「Phosphorus allocation to and resorption from leaves regulate the residence time of phosphorus in

above-ground forest biomass on Mount Kinabalu, Borneo」

8. 学会事務局体制

(1) 日本熱帯生態学会監事・編集委員長・幹事

監事 酒井章子, 竹田晋也

編集委員長 藤間剛

幹事長 佐々木綾子

広報幹事 北村俊平, 百村帝彦

編集幹事 寺内大左

財務幹事 奥田敏統

総務幹事 伊東 明, 竹内やよい, 山田俊弘

会計幹事 小坂康之

庶務幹事 及川洋征, 大石高典, 四方 篝, 保坂哲朗

(2) 事務局・編集委員会・会計事務

【学会事務局】

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

日本大学生物資源科学部国際地域開発学科

日本熱帯生態学会事務局

佐々木綾子(幹事長)

E-mail: jaste.adm@gmail.com

【編集委員会(投稿原稿の送付先)】

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

国立研究開発法人 森林研究・森林整備機構

森林総合研究所 企画部(気付)

日本熱帯生態学会編集委員会 藤間 剛(編集委員長)

E-mail: tropics.jaste@gmail.com

【会計事務】

〒606-8501

京都市左京区吉田本町京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

日本熱帯生態学会 会計事務担当 小坂康之

e-mail: kosaka.yasuyuki.8c@kyoto-u.ac.jp

(3) 評議員

相場慎一郎, 市榮智明, 市岡孝朗, 市川昌広,

伊東 明, 井上 真, 落合雪野, 北島 薫,

北村俊平, 小坂康之, 酒井章子, 佐々木綾子,

四方 篝, 竹内やよい, 竹田晋也, 藤間 剛,

原田一宏, 百村帝彦, 保坂哲朗, 山田俊弘

(4) 編集委員会

相場慎一郎, 伊藤文紀, 江原 誠, 大田真彦, 大橋伸太, 上谷浩一, 北村俊平, 寺内大左, 中林 雅, 森 大喜, 山田俊弘, 米田令仁

(5) 吉良賞選考委員会

伊東 明, 酒井章子, 田中憲蔵, 田中壮太, 百村帝彦

(6) 若手イノベーション委員会

浅野 郁, 安間更紗, 河合清定, 中林 雅, 中村亮介, 原 将也, 森 大喜

9. ダイバーシティ推進活動

(1) JASTE32 での託児補助

対象者が利用した託児料金の一部負担のかたちで託児補助を実施。2022年6月19日(日)のみ, 子供2名が利用(ダイバーシティ予算より計7,125円を支出)。会場内にファミリー休憩室を設置。両日とも子供1名が利用(無料)。ニューズレターNo.128に託児補助報告の掲載。

(2) 男女共同参画学協会連絡会関連

男女共同参画学協会連絡会運営委員会・シンポジウムへの参加(8月, 10月, 12月, 3月), JASTE32 サテライト企画の後援依頼(5月), JASTE32 サテライト企画開催報告(12月の運営委員会)。JASTE 活動報告の提出・ポスター掲示(10月のシンポジウム)。ニューズレターNo.129にシンポジウム参加報告掲載。「若手研究者の雇用に関するアンケート」実施。

10. 若手イノベーション委員会の活動

(1) 2022年度日本熱帯生態学会研究助成(若手研究助成)の実施。以下の3件を採択した。

氏名: Truong Mai Van

研究活動名称: Assessment of children's play in nature and influential factors for the play in urban and rural areas in Vietnam.

助成額: 10万円

氏名: Dahal Nabin Kumar

研究活動名称: Cooperation and co-existence efforts to reduce the impact of human wildlife conflict in the buffer zone of Koshi Tapp Wildlife

reserve, Nepal.

助成額: 5万円

氏名: Rahman Md. Habibur

研究活動名称: Geographical variations of woodfuel supply and trade within 30 km of two forest protected areas in northeastern Bangladesh.

助成額: 5万3千円

ただし, Rahman Md. Habibur氏に関しては, 予定していた国際学会に出席できなかったため全額返金対応を行った。

(2) 「JASTE 第1回若手交流セミナー」の実施

日時: 2023年1月20日(金) 20時~21時30分 (日本時間)

会場: オンライン (Zoom)

参加者: 23名 (非会員9名含む)

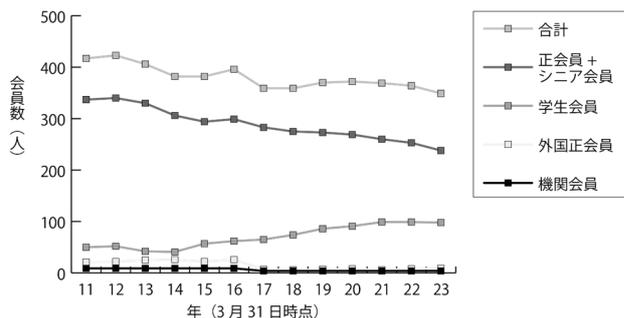
11. 会員動向

(1) 2022年度の動向(2023年3月31日現在, 会費納入ベース)

会員種別	2022.3現員	22年減	22年増	2023.3現員
正会員 1	207	-8	+1	200 (-7)
正会員 2	13	0	0	13 (±0)
シニア会員	26	-2	+1	25 (-1)
学生会員	79	-2	+21	98 (+19)
外国正会員	7	0	+2	9 (+2)
機関会員	4	0	0	4 (±0)
合計	336	-12	+25	349 (+13)

*カッコ内の数字は, 2022年3月31日からの変動。

(2) 過去13年間の変動(2011年3月31日から2023年3月31日まで, 会員名簿ベース)



12. その他

(1) クラウド型会員情報管理・入会一元管理サービス導入の検討。会員管理業務を委託している(株)ソウブン・ドットコム(創文印刷工業株式会社)が仲介する「Shikuminet(シクミネット)」(しゅくみねっと株式会社提供)の運用に向け協議開始。

I-2. 2023 年度事業計画(案)

1. 研究会, 研究発表会の開催

(1) 第 33 回年次大会(高知・対面/オンラインのハイブリッド形式)の開催

2023 年 6 月 23 日(金)~25 日(日)

大会実行委員長:市川昌広

大会実行委員会:田中壮太, 米田令仁, 市栄智明

託児支援担当:四方 篤, 米田令仁

ウェブサイト担当:佐々木綾子

参加費担当:小坂康之

優秀発表賞担当:田中憲蔵

会場:高知市オーテピアおよびオンライン(Zoom)

連携学会:東南アジア学会, 日本アフリカ学会, 日本サンゴ礁学会, 日本タイ学会, 日本泥炭地学会, 日本熱帯農業学会, 日本マングローブ学会, 日本島嶼学会

(2) 公開シンポジウム「熱帯研究の活かしかた・上げかた」

日時: 2023 年 6 月 25 日(日) 13 時~16 時 40 分

会場: 高知市オーテピア 4 階ホールおよびオンライン配信(Zoom)

(3) ワークショップ等の開催, 後援, 助成

① 若手イノベーション委員会による JASTE33 サテライト企画「“研究と社会をつなぐ”をリアルに! ~生態学者がアプリをつくる~」の開催

日時:2023 年 6 月 25 日(日)11 時~12 時

会場:高知市オーテピア 4 階ホールおよびオンライン配信(Zoom)

② 国際基礎科学年シンポジウム:公開シンポジウム「食・土・肥料-SDGs 達成のための基礎科学として-」の後援

日時:2023 年 7 月 29 日(土)10 時~16 時 15 分

会場:東京農業大学世田谷キャンパス百周年記念講堂およびオンライン配信(Zoom)

2. 定期, 不定期出版物の刊行

(1) TROPICS の発行

32 巻 1 号(2023 年 6 月 1 日発行)

原著論文 2 報, Field note 1 報

32 巻 2 号(2023 年 12 月 1 日発行予定)

受理済原稿 原著論文 2 報, Field note 1 報

(2) ニュースレターの発行

No. 131~134 を発行する

※No. 131 は 2023 年 5 月 25 日に発行.

(3) 学会メールの送信

学会メーリングリストを通じて, 会員への情報提供を 1 ヶ月に 1 回行う(広報幹事が担当).

(4) TROPICS の発行回数変更とオープンアクセスジャーナル化

- TROPICS が年 2 号発行となったため, 学会細則の改正をする.

- オープンアクセスジャーナルとしての要件を満たすため投稿規定に次の事項を明記するとともに, 改正版投稿規定を, 学会ウェブサイト, J-Stage に掲載し, J-Stage にオープンアクセスジャーナル化の申請を行う.

1) 掲載論文がオープンアクセスとなること.

2) Tropics の発行経費は会費で賄っていること, 非会員には掲載料として年会費相当額を請求する.

3) Tropics に受理された論文の著作権は, 学会が有すること.

4) Tropics 掲載論文に相応しい CC ライセンスとして CC-BY を選定し, 各論文に明示する.

5) プレプリントの取り扱いについて検討し, その結果を投稿規程に反映する.

(5) 雑誌交換(寄贈)

Senckenberg Research Institute and Museum of Natural History Frankfurt から雑誌交換の申し出がある.

Tropics は, オンラインで全文公開していること, 相手側から雑誌を受け取っても保管場所がないことから, 新規発行分を雑誌交換は現実的ではない. 冊子体を会員に郵送していた 30 巻までを寄贈する.

参考 日本熱帯生態学会規約細則

第9条 本会の刊行物の寄贈, 交換その他処分については評議員会で決める.

3. 第 33 回総会の開催

2023 年 6 月 24 日(土)15 時 30 分~ 高知市オーテピアおよび Zoom を用いたオンライン配信を予定

4. 第 34 回評議員会の開催

2023 年 6 月 23 日(金)14 時 30 分~ 高知市オーテピアおよびオンライン会議(Zoom)

5. 第33回編集委員会の開催

2023年6月23日(金)13時～高知市オーテピア
およびオンライン会議(Zoom)

6. 幹事会の開催

第88回:2023年6月12日(月)13時～15時 オンライン会議
その他、暫時必要に応じて開催する。

7. 吉良賞

2023年度の吉良賞募集は、2023年2月28日に
締め切った。特別賞の申請者はなかった。奨励賞
は、駒田夏生氏(京都大学大学院地球環境学堂)
が選考委員会で選考された。受賞対象業績は以
下のとおり。

駒田 夏生 氏

「Effects of host tree size on the species richness and
abundance of epiphyte assemblages in a Bornean
lowland tropical forest.」

8. 学会事務局体制

(1) 日本熱帯生態学会監事・編集委員長・幹事

監事	酒井章子, 竹田晋也
編集委員長	藤間剛
幹事長	佐々木綾子
広報幹事	北村俊平, 百村帝彦
編集幹事	寺内大左
財務幹事	奥田敏統
総務幹事	伊東明, 竹内やよい, 山田俊弘
会計幹事	小坂康之
庶務幹事	及川洋征, 大石高典, 四方篤, 保坂哲朗

(2) 事務局・編集委員会・会計事務

【学会事務局】

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部国際地域開発学科
日本熱帯生態学会事務局
佐々木綾子(幹事長)
E-mail: jaste.adm@gmail.com

【編集委員会(投稿原稿の送付先)】

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1
国立研究開発法人 森林研究・森林整備機構
森林総合研究所 企画部(気付)

日本熱帯生態学会編集委員会 藤間 剛(編
集委員長)

E-mail: tropics.jaste@gmail.com

【会計事務】

〒606-8501

京都市左京区吉田本町京都大学本部構内総
合研究2号館4階

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研
究科

日本熱帯生態学会 会計事務担当 小坂康
之

e-mail: kosaka.yasuyuki.8c@kyoto-u.ac.jp

(3) 評議員

相場慎一郎, 市榮智明, 市岡孝朗, 市川昌広,
伊東 明, 井上 真, 落合雪野, 北島 薫,
北村俊平, 小坂康之, 酒井章子, 佐々木綾子,
四方 篤, 竹内やよい, 竹田晋也, 藤間 剛,
原田一宏, 百村帝彦, 保坂哲朗, 山田俊弘

(4) 編集委員会

相場慎一郎, 伊藤文紀, 江原 誠, 大田真彦,
大橋伸太, 上谷浩一, 北村俊平, 寺内大左,
中林 雅, 森 大喜, 山田俊弘, 米田令仁

(5) 吉良賞選考委員会(選考委員長)

伊東明, 酒井章子, 田中憲蔵, 田中壮太,
百村帝彦

(6) 若手イノベーション委員会

浅野 郁, 安間更紗, 河合清定, 中林 雅,
*中村亮介, 原 将也, 藤澤奈都穂, 森 大喜
(*2023年度委員長)

9. 第18期(2024～2025年度)会長・評議員選挙

2023年10～12月に実施予定

10. ダイバーシティ推進活動

(1) JASTE33での託児補助

対象者が利用した託児料金の一部負担のかたち
で託児補助(子供1人5,000円/日, 会員1人の上
限額15,000円/日)を実施予定。

(2) 男女共同参画学協会連絡会関連

男女共同参画学協会連絡会運営委員会・シンポジ
ウムへの参加予定(8月, 10月, 12月, 3月)

11. 若手イノベーション委員会の活動

(1) 2023 年度日本熱帯生態学会研究助成(若手研究助成)の実施. 以下の3件を採択.

2023年3月に2023年度若手研究助成への応募書類の審査を実施した. 若手イノベーション委員会において応募書類での記述内容をもとに, 公正かつ慎重に検討した. 結果, 3名の候補者に対し本助成金の趣旨に合致し, 受給者にふさわしいと, 委員の意見の一致を得た.

氏名: Mohamad Ashraf Abdul Mutalib

研究活動名称: Comparison Study of Soil Macrofauna between Large Scale and Smallholder Oil Palm Plantation in Relation to Litter Decomposition.

助成額: 7万5千円

氏名: Ku Noor Khalidah Ku Halim

研究活動名称: Predicting Site Occupancy, Density, Diversity and Ecology of Native Mammals in Tropical Agricultural Habitats: Through Wildlife-Friendly Farming/Land Sharing Strategy.

助成額: 7万5千円

氏名: 駒田 夏生

研究活動名称: ボルネオ島サラワク州の複数地点の森林を対象とした維管束着生植物の多様性比較.

助成額: 5万円

II-1. 2022 年度会計報告(案)

後掲

II-2. 2023 年度予算(案)

後掲

III. 第34回日本熱帯生態学会年次大会開催予定

2024年6月28日~30日に福井県国際交流会館(大会実行委員会: 福井県立大学)で開催予定

IV. その他

- (1) 会員種別の変更および会員管理・入会手続きのオンライン化に伴い, 会員管理に関する方針の再検討が必要であるとの指摘を受けている. 作業部会を設置し, 現状に即した方針を検討する.
- (2) 会員管理システム上の年会費請求開始時期(4月1日)と, 現行前納としている会費請求時期(11月)の運営上の整合性を図る.

日本熱帯生態学会 2022年度決算(案)

一般会計		A	B	A-B
		2022年度決算(案)	2022年度予算	差額
1. 収入の部		6,440,501	6,767,391	△326,890
(1) 会費	会費小計	684,000	1,400,000	△716,000
	正会員1(6,000円×207名)	604,000	1,242,000	△638,000
	正会員2(1,000円×13名)	0	13,000	△13,000
	学生会員(1,000円×79名)	38,000	79,000	△41,000
	シニア会員(1,000円×26名)	2,000	26,000	△24,000
	機関会員(10,000円×4機関)	40,000	40,000	0
	海外会員	0	0	0
(2) 雑収入	雑収入小計	589,110	200,000	389,110
	利息	2		2
	別刷売上	0		0
	バックナンバー売上	0		0
	年次大会収入	367,171		367,171
	掲載料等	57,970		57,970
	その他:若手支援金返金	53,000		53,000
	その他:学術著作権	110,967		110,967
(3) 前年度繰越金		5,167,391	5,167,391	0

日本熱帯生態学会 2022年度決算(案)

一般会計		A	B	A-B
		2022年度決算(案)	2022年度予算	差額
2. 支出の部		6,440,501	6,767,391	△326,890
(1) 運営費	業務委託費	416,559	500,000	△83,441
	印刷費	6,240	10,000	△3,760
	消耗品費	290,243	20,000	270,243
	通信運搬費	53,997	100,000	△46,003
	会合費	10,610	10,000	610
	旅費	0	300,000	△300,000
	賃金	0	10,000	△10,000
	ホームページ運営費	33,000	100,000	△67,000
(2) 事業費	年次大会	200,000	200,000	0
	ワークショップ	150,000	150,000	0
	若手イノベーション支援	203,000	200,000	3,000
	ダイバーシティ推進費	135,266	200,000	△64,734
(3) 出版費	印刷費	0	500,000	△500,000
	編集費	859,629	500,000	359,629
	通信運搬費	0	100,000	△100,000
(4) 雑費		26,293	50,000	△23,707
(5) 役員選挙費用		0	0	0
(6) 予備費		0	3,817,391	△3,817,391
(7) 次年度繰越金		4,055,664	0	4,055,664

日本熱帯生態学会 2022年度決算(案)

特別会計		A	B	A-B
		2022年度決算(案)	2022年度予算	差額
1. 収入の部		1,452,895	1,452,895	0
(1) 前年度繰越金		1,452,895	1,452,895	0
(2) 利息収入		0	0	0
2. 支出の部		1,452,895	1,452,895	0
(1) 吉良賞副賞		50,000	50,000	0
(2) 一般会計繰入		0	0	0
(3) 特別事業		0	0	0
(4) 次年度繰越金		1,402,895	1,402,895	0

日本熱帯生態学会 2023年度予算(案)

一般会計

		2023年度予算(案)
1. 収入の部		5,626,664
(1) 会費	会費小計	1,371,000
	正会員1(6,000円×199名)	1,194,000
	正会員2(1,000円×14名)	14,000
	学生会員(1,000円×97名)	97,000
	シニア会員(1,000円×26名)	26,000
	機関会員(10,000円×4機関)	40,000
	海外会員	
(2) 雑収入	雑収入小計	200,000
	利息	
	別刷売上	
	バックナンバー売上	
	年次大会収入	
	掲載料等	
	寄付	
	その他:学術著作権	
(3) 前年度繰越金		4,055,664

日本熱帯生態学会 2023年度予算(案)

一般会計

		2023年度予算(案)
2. 支出の部		5,626,664
(1) 運営費	業務委託費	500,000
	印刷費	10,000
	消耗品費	20,000
	通信運搬費	100,000
	会合費	10,000
	旅費	150,000
	賃金	10,000
	ホームページ運営費	100,000
(2) 事業費	年次大会	200,000
	ワークショップ	150,000
	若手イノベーション支援	250,000
	ダイバーシティ推進費	200,000
(3) 出版費	印刷費	500,000
	編集費	500,000
	通信運搬費	100,000
(4) 雑費		50,000
(5) 役員選挙費用		90,000
(6) 予備費		2,686,664
(7) 次年度繰越金		0

日本熱帯生態学会 2023年度予算(案)

特別会計

		2023年度予算(案)
1. 収入の部		1,402,895
(1) 前年度繰越金		1,402,895
(2) 利息収入		0
2. 支出の部		1,402,895
(1) 吉良賞副賞		50,000
(2) 一般会計繰入		0
(3) 特別事業		0
(4) 次年度繰越金		1,352,895

JASTE33 託児補助実施報告

日本熱帯生態学会事務局 庶務幹事(ダイバーシティ推進担当)
四方 籐(京都大学)

2023年6月24・25日に開催された第33回日本熱帯生態学会年次大会(JASTE33)は、高知市・オーテピアでの対面とオンライン(Zoom)を併用したハイブリッド開催となりました。JASTEでは2018年より大会期間中の託児サービス提供を実施しています。今年度は、施設の都合上、会場での託児サービスの提供はありませんでしたが、一昨年度、昨年度と同様、託児利用の範囲を会場周辺や利用者の自宅周辺(シッター利用や保育園の一時保育、ファミリーサポート利用等)でも広く認めることとし、対象者が利用した託児料金の一部負担というかたちで託児補助を実施しました。大会実行委員長の市川昌広先生、米田令仁先生をはじめ高知大学の大会実行委員会の皆様には、近隣託児施設にかんする情報提供等、ご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

会場のオーテピア近隣の民間託児施設を利用された参加者の方から以下のようなご感想をいただきましたので紹介します。

We are on-site participants to the JASTE 33 conference, experienced good assistants from Childcare service provided by JASTE 33 (KOCHI). The JASTE33 childcare assistant was so helpful and convenient that we can make our work finish with no stress and can ensure full time participation in conferences and conduct our presentation. They facilitated a range of activities, especially preparations

to use the nursery before the event, assisting communication with the nursery staff for the first time visit and assisting in applying childcare fees.

As a participant with a child, childcare facilities during conferences are important. Therefore, I want to say thank you very much for your arrangement for childcare and the committee members for their consideration for researchers who are parents of young children."

大会期間中の託児補助の提供は、対面／オンライン開催によらず、学会参加を制限されていた会員が学会に参加しやすくなるのが大きな利点です。ご感想にもありますように、育児中の研究者が大会に集中して参加できること、そしてお子さんも安全に楽しい時間を過ごせる環境を提供することが重要となります。

上述のとおり、JASTEでは2018年より託児サービスならびに託児料金の補助を提供していますが、補助の内容・形式は大会会場の設備や開催形式(オンライン・ハイブリッド等)に応じて柔軟に対応しています(表1)。大会実行委員会の皆様には、情報提供などご協力いただきながら、幹事会の方で取りまとめをするかたちで運営しています。今後も、育児中の研究者や留学生をはじめ、多様なニーズをもつ会員がより参加しやすい学会環境を整えていきたいと考えています。学会員の皆様のご理解・ご協力をいただければ幸いです。

表1. JASTEにおける託児補助の内容・形式.

年	大会名(開催地・開催形式)	託児補助の内容・形式
2018	JASTE28(静岡・対面)	託児利用料金の補助 学内保育所の利用
2019	JASTE29(北海道・対面)	託児利用料金の補助 大会会場内の会議室で出張託児を利用
2020	JASTE30(オンライン)	コロナ禍のため、託児補助実施せず
2021	JASTE31(広島・ハイブリッド)	託児利用料金の補助(自宅近辺でも可)
2022	JASTE32(名古屋・ハイブリッド)	託児利用料金の補助(自宅近辺でも可) 会場内にファミリー休憩室(無料)の設置
2023	JASTE33(高知・ハイブリッド)	託児利用料金の補助(自宅近辺でも可) 会場近隣の民間託児施設の利用

TROPICS のオープンアクセスジャーナル化について

日本熱帯生態学会編集委員長 藤間 剛

オープンアクセスジャーナル化の目的と検討事項

「オープンアクセス」とは、インターネット上に論文等を無料公開し、二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することで、誰もが障壁なくアクセスできること(科学技術情報発信・流通総合システム利用規約第2条(4))を指します。日本熱帯生態学会は、熱帯地域の生態学的研究の進歩と研究成果の交流と普及に努めてきました。そして、研究成果を広く社会に還元し、熱帯地域に生じている社会と自然をめぐる諸問題が正しく理解され、解決されるよう、学会誌 *Tropics* を発行しています。*Tropics* をオープンアクセスジャーナル(OAJ)にするのは、専門家による査読を経て掲載に至った研究成果をできるだけ多くの人に活用してもらえるようにするためです。

OAJ 化に向けて、二次利用の範囲、受理した論文(総説、フィールドノートを含む)の著作権所有者(著者か学会か)を定め、学会ウェブサイト(<https://www.jaste.website/tropics>)や J-Stage で公開している *Tropics* に関する情報(https://www.jstage.jst.go.jp/browse/tropics/_pubinfo/_char/en)に反映する必要があります。本稿ではその概要を説明しますので、ご意見や質問をお寄せいただければ幸いです。

二次利用の範囲として CC-BY を選定

Tropics は現在、掲載論文の全てを J-Stage で無料公開しています。各論文に二次的利用の範囲に関するライセンス情報を明記することにより、OAJ の要件を満たすことができます。*Tropics* 掲載論文をさまざまな形で多くの人に利用してもらえるよう、*Tropics* 掲載論文に明記するライセンス情報として、クリエイティブ・コモンズライセンス(CC ライセンス)の CC-BY(表示)を選定します。

<<CC ライセンスとはインターネット時代のための新しい著作権ルールで、作品を公開する作者が「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません。」という意思表示をするためのツールで、CC ライセンスを利用することで、作者は著作権を保持したまま作品を自由に流通させることができ、受け手はライセンス条件の範囲内で再配布やリミックスなどを行うことができます。CC-BY(表示)は、原作者のクレジット(氏名、作品タイトルなど)を表示することを主な条件とし、改変

はもちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度の高い CC ライセンスです。

<https://creativecommons.jp/licenses/> >>

(CC-BY (表示)の法的定義 <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>)

Tropics 掲載論文の著作権についての検討

これまで *Tropics* に投稿された論文は、受理された時点でその著作権を、日本熱帯生態学会が有することとしてきました。*Tropics* は学会活動の一環として学会員をはじめとする専門家が査読・審査を行い、学会費を原資として出版しています。このように *Tropics* は、著者らと学会の共同作業の成果であることから、*Tropics* に受理した論文の著作権はこれまで同様、学会が保有することを提案します。

プレプリントの取扱い

近年、査読誌への投稿に先立って査読前の論文(プレプリント)をインターネット上で公開することが増加しています。例えば、科学技術振興機構でも、2022年3月よりプレプリントサーバ Jxiv(ジェイカイブ <https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv>)を運用しています。研究成果の迅速な公表に協力するため、*Tropics* ではプレプリントサーバで公開されている論文を条件付きで受けつけることを提案します。

具体的には、投稿時に著者らに次の確認を求めることとします。一次研究を記述した原稿のオリジナルバージョンであること。査読コメントうけて修正した原稿および *Tropics* に受理された原稿をプレプリントサーバに掲載しないこと。原稿が *Tropics* に受理・公開された場合に、著者はプレプリントを更新して、J-Stage で公開された *Tropics* の論文にリンクをはること。

投稿規定の改正

本稿で説明した内容を適用し、2024年6月発行の32巻1号から *Tropics* が OAJ となるよう投稿規定を改正します。改正案が出来次第、会員限定サイトにて公開し、会員の皆様に確認をお願いしたいと考えています。

本件について、ご意見、ご質問がございましたら編集委員長 (tropics.jaste@gmail.com) 宛メールでお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。

参考資料・ウェブサイト

Tropics の OAJ 化の検討では、主に次の資料・ウェブサイトを参考にしています。

J-STAGE 登載ジャーナルのためのオープンアクセスガイド

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_openAccessGuide.pdf

日本学術振興会>事業のご案内>科学研究費助成事業>オープンアクセス

[https://www.jsps.go.jp/j-](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html)

[grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/08_openaccess/index.html)

J-STAGE ジャーナルコンサルティング ミニセミナー「オープンアクセス誌にするには:実践編」

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/2022_4th_miniseminar_material.pdf

「サテライト企画」開催報告

若手イノベーション委員会 中村亮介(京都大学), 原将也(神戸大学), 他委員一同

若手イノベーション委員会では、2023年6月25日のJASTE33高知大会にて、サテライト企画【“研究と社会をつなぐ”をリアルに！～生態学者がアプリをつくる～】を開催しました(写真1)。株式会社BIOMEの藤木庄五郎氏(CEO)にご講演いただき(写真2)、ハイブリッド開催で総勢52名(現地35名, オンライン17名)が参加しました。

講演の中では、解決すべき課題、問題意識として、生物多様性の保全、生物種の減少が挙げられました。博士課程在学時の藤木氏のボルネオ島のフィールド調査や、衛星画像と組み合わせて生物多様性を解析した経験、またその研究から感じた現地データ収集がボトルネックになって社会実装が難しいといった現実に向き合った経験が語られ、それらは現在の株式会社BIOMEの立ち上げに繋がっていきました。

現在の事業についても、種同定アプリBIOMEの開発裏側をお話し頂きました。スマホ・アプリを使用したデータ収集に着目し、多くの個人からデータを集める方法を考え、写真を撮って同定するAIの開発に挑戦されています。今ではリアルタイムで生物を監視するシステムとして機能し、さまざまな機関、自治体と連携しながら生物保全に取り組まれています。

世界的に環境問題が深刻なリスクになる中、気候変動と生物多様性に対して、かつてないほどの注目が集まっています。今後、社会がその仕組みを作っていくうえで、生物多様性について理解した人材が必要となってきたことについても、実体験をもってお話し頂きました。

講演後には多数の質問があり、活発な議論が繰り広げられました。佐々木幹事長による終わりのあいさつでは、生物多様性について、危機感をあおる暗い



写真1 現地の様子(河合氏撮影)。

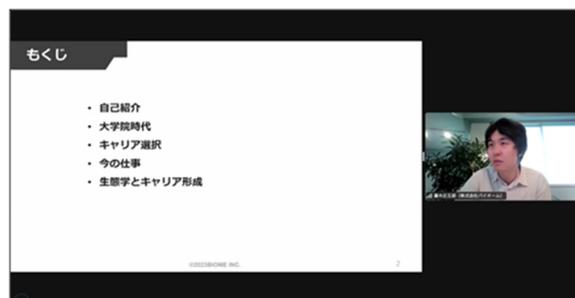


写真2 講演する藤木氏(中村氏撮影)。

話が多い中、それだけではなく、今後どうしていけばいいのか、未来をみながら明るい方向で生物多様性について考えることができる良いきっかけとなったとの感想が述べられました。

企画に参加した学生からも、これまでない新たな視点から熱帯生態学を学ぶ重要性に気づいたことなど、好意的な意見が数多く寄せられました。若手イノベーション委員会では、若手研究者の効果的な支援を目的とし、引き続き若手会員を中心としてさまざまな活動に取り組んでいく予定です。

編集後記



わたしの地元の石川県白山市では、子ども会連合会の協力のもとホタル生息調査を実施しています。今年は家族が子ども会の役員をしていることもあり、ホタル調査のサポートにでかけてきました。6月中旬にゲンジボタル調査として、町内のホタルのいそうな用水や水田沿いを参加者の家族らとともに歩きました。わたしが小学生だった40年前には、この辺りの水田でもヘイケボタルは普通に見られましたが、ゲンジボタルは見ることがありません。宅地化の進んだ現在、環境的にもホタルはもういないだろうなと思いつつ、町内をぐるっと歩き、アマガエルやツチガエルの鳴き声を説明して、その日の調査は終了しました。翌朝、出勤しようと自宅玄関を出ると、天井に黒と赤の塊が見えたので、近寄ってみるとゲンジボタルの雄でした。君はどこからやってきたの？ちなみに発光間隔は西日本タイプでした。

写真：玄関前天井にいたゲンジボタルの雄(2023年6月19日に自宅で撮影)。

ニューズレターへの投稿は、編集事務局：北村 (shumpei@ishikawa-pu.ac.jp)・百村 (hyaku@agr.kyushu-u.ac.jp) へ。

日本熱帯生態学会事務局

日本大学生物資源科学部国際地域開発学科
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
Email: jaste.adm@gmail.com

The Japan Society of Tropical Ecology General Office
c/o College of Bioresource Sciences, Nihon University
1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa 252-0880, Japan
E-mail: jaste.adm@gmail.com

日本熱帯生態学会ニューズレター 132号

編集 日本熱帯生態学会編集委員会
NL 担当：北村俊平 (石川県立大学)
百村帝彦 (九州大学)

NL 編集事務局
〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
石川県立大学 生物資源環境学部
環境科学科 植物生態学分野 (C210)

発行日 2023年8月25日
印刷 株式会社ソウブン・ドットコム
電話 03-3893-0111